

長野体育学研究

第 20 号

<原著論文>

- 1 速水達也, 杉本光公, 木塚朝博
抽象表現での運動強度呈示下における立ち幅跳び跳躍距離の変化

<日本体育学会甲信支部長野体育学会 シンポジウム報告>

- 9 武道必修化にあたり, みんなが楽しめる武道の授業を考える
(2013年1月26日開催)

<学会通信>

- 17 日本体育学会甲信支部長野体育学会平成24年度総会議事録
19 日本体育学会甲信支部長野体育学会研究論文集に関する規定
21 甲信支部長野体育学研究 論文執筆要項

日本体育学会甲信支部長野体育学会

平成 25 年 7 月

日本体育学会甲信支部長野体育学会平成 24 年度総会議事録

日時：平成 25 年 1 月 26 日(土) 午後 1 時～午後 1 時 4 0 分

場所：信州大学教育学部 M301 教室

<報告・了承事項>

1. 日本体育学会関連報告

渡辺理事長より、以下のことが報告された。

- ①日本体育学会の「一般社団法人」の認可に伴う連絡について。
- ②日本体育学会の出した体罰問題に関する緊急声明について。

2. 平成 25-26 年度理事選挙結果の報告

渡辺理事長より、平成 25-26 年度の理事選挙結果について報告された。

3. 平成 24 年度事業報告

①長野体育学会第 48 回大会について

渡辺理事長より、第 48 回大会はシンポジウム企画とともに、4 題の演題が集まり、開催できる旨報告された。

②『長野体育学研究』第 19 号の発行について

渡辺理事長より、原著論文 3 件、研究資料 1 件の掲載について報告された。

③『長野体育学研究』第 20 号の編集状況について

渡辺理事長より、原著論文 2 件の投稿が有り、査読の手続きを進めている旨報告された。

<協議事項>

1. 平成 25-26 年度役員組織について

渡辺理事長より、平成 25・26 年度新理事候補者の打ち合わせ会において決定した次期役員候補の提示があり、平成 25-26 年度の役員組織について以下のように承認された。(なお、会則(5・6 条)により、新会長から会長推薦理事、および新理事長から幹事の委嘱がある)

会 長	渡辺 伸
副会長	黒岩敏明
理事長	渡辺敏明
理 事	岩田 靖, 内山了治, 三條俊彦, 篠原菊紀, 寺沢宏次, 橋本政晴, 平野吉直, 結城匡啓
監 事	小林敏枝, 和田哲也

2. 平成 24 年度決算について

橋本総務担当理事より、平成 24 年度の決算書が提示され、承認された。

3. 平成 25 年度事業案について

①長野体育学会第 49 回大会及び総会について

渡辺理事長より、長野体育学会第 49 回大会及び総会についての計画が提案され、承認された。

日本体育学会甲信支部長野体育学会 第 49 回大会

開催日：平成 26 年 1 月 25 日（土）

場 所：信州大学教育学部

大会開催案内 平成 25 年 10 月上旬

発表受付・大会号抄録締切 平成 25 年 11 月下旬

大会号発送 平成 25 年 12 月下旬

②『長野体育学研究』の発行について

渡辺理事長より、『長野体育学研究』第 21 号の発行についての計画が提案され、承認された。

発行日：平成 26 年 8 月末予定

投稿案内：平成 25 年 3 月下旬予定（長野体育学研究第 20 号送付時に同封）

投稿申込締切：平成 26 年 2 月末

投稿原稿提出締切：平成 26 年 3 月末

③その他の事業

渡辺理事長より、その他の事業については現在、検討中である旨が説明された。

3. 平成 25 年度 予算案について

橋本総務担当理事より、平成 25 年度の予算案が提示され、承認された。

日本体育学会甲信支部長野体育学会研究論文集に関する規定

- 第一条 日本体育学会甲信支部長野体育学会（以下本会という）は、会則第14条第3項の定めにより、研究論文集「長野体育学研究(Nagano Journal of Physical Education and Sports)」(以下論文集という)を発刊する。
- 第二条 論文集発行の期日は、当分の間特にこれを定めない。
- 第三条 論文集の編集は編集委員会によって行う。
- 第四条 論文集の発刊停止又は廃刊は、本会の総会において決定する。
- 第五条 附則 本規定は昭和58年12月4日より施行する。
附則 本規定は平成6年12月11日に改正し、同日より施行する。

「長野体育学研究」投稿規定

(平成 7年12月 3日 改正)
(平成 14年12月14日 改正)
(平成 20年1月26日 改正)

1. 投稿は日本体育学会甲信支部長野体育学会の会員に限る。ただし編集委員会が依頼する場合はこの限りではない。
2. 投稿内容は体育学の研究領域における総論、原著論文、実践研究、ショートペーパー、実践報告、研究資料などとし、完結したものに限る。これらは、編集委員会が依頼した査読者による審査を経て、編集委員会がその採否および掲載時期を決定する。審査の結果、原稿の部分的な書き直しを求めることがある。
3. 本誌に掲載された原稿は、原則として返却しない。
4. 原稿は、原則としてワードプロセッサによるカメラレディ原稿とする（執筆要項は別に定める）。ただし、紀要編集委員会が認めた場合はこの限りではない。論文は刷り上がりを極力偶数ページとする。但し、手書き原稿で提出し、別に定める料金を著者が負担することにより、ワープロ入力を編集委員会に依頼することができる。
5. 原稿の作成にあたっては、以下の事項を厳守する。詳細は執筆要項による。
 - (1) 原稿は、A4判無地用紙を用い、横書きで入力する。
 - (2) 欧文原稿及び欧文アブストラクトについては、「別紙」としてその和訳文を添付する。
 - (3) 原稿の体裁は、最初から順に論文題目・必要な場合は副題目・著者名(所属)・欧文題目・必要な場合は欧文副題目・著者のローマ字名<名は頭文字のみ大文字、姓はすべて大文字>(所属)を表記する。これらに続いて、欧文のアブストラクト(250語以内～なくても可)・本文・注・文献の順に記述する。
 - (4) 写真を使用する場合は、鮮明なものを傷がつかないように提出する。ネガを添えることが望ましい。挿入箇所を本文中に明記する。
 - (5) 度量衡単位は、原則としてSI単位(m, kg, cm, kg, mgなど)を使用する。
 - (6) 飾り文字・特殊記号などの使用はなるべく避ける。ゴシック太字等は用いない。

日本体育学会甲信支部長野体育学会研究論文集に関する規定

- (7) 本文中の欧文及び数値は、1文字の場合は全角、2文字以上続く場合は半角文字で書く。
- (8) 本文中での文献の記載は、著者・出版年方式(author-data method)とする。また、文献リストは、本文の最後に著者名のABC順に一括し、定期刊行物の場合には、著者名(発行年):論文名、誌名、巻号:引用ページ(p.またはpp.)の順とし、単行本の場合は、著者名(発行年):書名、発行所、発行地:引用ページ(p.またはpp.)の順とする。詳細は執筆要項参照のこと。
- (9) 注書きは、本文の末尾と文献の間に、注1)、注2)のように番号順に記載する。
6. 提出する原稿は、オリジナル原稿1部とその論文のみが入力されている3.5インチのフロッピーディスクまたはCDとする。なお、ディスクのラベルに、論文タイトル、著者名、使用機種・ソフト名(バージョン)を記入する。
7. 総説、原著論文、研究資料の原稿は、原則として1編につき図表、抄録を含めて刷り上がり8ページ以内とし、それを超える分は、その実費を著者負担とするほか、特別の経費を要する場合は、この分についても本人負担とする。
8. 校正は、編集委員会作業分を除き原則として行わない。
9. 別刷り希望者は、著者校正の際表紙に希望部数を朱書する。必要経費は著者負担とする。
10. 送付先は下記とする。

〒380-8544 長野市西長野 6-1
信州大学教育学部
日本体育学会 甲信支部長野体育学会 事務局

長野体育学研究 論文執筆要項*

— フォーマット, 編集委員会 —

明朝p14

明朝p12

1行あけ

長野体育¹⁾ 信州体育²⁾

明朝p10.5

(平成 年 月 日 受理)・・・<日付は査読時に連絡する>

2行あけ

Preparation of Papers for Nagano Journal of Physical Education and Sports

— Format of Paper, Henshyu Iinkai—

Century 10.5

1行あけ

名は頭文字のみ大文字, 姓はすべて大文字. (所属)

Taiiku NAGANO (Faculty of Education, Shinsyu University)

Century 10.5

Taiiku SINSHYU (Nagano National College of Technology)

2行あけ

Abstract

本文の前に英文要旨を記入する. 1段組, 文頭は5文字分空ける. 5~10行. 英文要旨のマージンは, 左右各30mmとする. 行間は少し狭くする.

2行あけ

キーワード: 紀要, 執筆要項, フォーマット

1行あけ

1. はじめに ゴシック 10.5

章題の前後はそれぞれ1行空ける.

長野体育学研究は, これまでは信州大学教育学部大学院生の協力を得て, ワープロ入力や編集・校正作業などを行ってきた. しかし, それには限界があり, 今回の改定で投稿者の責任によるカメラレディ原稿に変更しようとするものである. そこで, 各論文が極力統一されるよう以下に基準を示す.

章題前後1行あけ 2. 主な形式

主な形式とフォント等は表1に示した.

3. 本文

(1) 符号について: 終止符はピリオド(.), 語句の切れ目はコンマ(,)を使用する.

(2) 引用符は, 和文の場合には「」, 欧文の場合には“ ”を用いる. コロン(:): 副題, 説明, 引用文などを導く場合に用いる.

(3) 本文中の参考文献

著者・出版年方式(author-data method): 著者が2名の場合, 和文の場合には中黒(・), 欧文の場合には“and”でつなぐ. 著者が3名以上の場合は, フェースト・オーサーの姓の後に和文の場合には「ほか」, 欧文の場合には“et al.”を用いる. 複数の文献が連続する場合はセミコロン(;)でつなぐ.

4. その他 章題前後1行あけ

(1) 提出原稿はA4版とし, それを約86%に縮小し

表1 主な形式

項目	内容
仕上がり版型	B5
原稿版型	A4 提出→86%縮小
本文	2段組 中央7.5mm
1段1行文字数	標準:21字 欧文42字
段落内本文行数	標準:42行
マージン上, 下, 左右	32, 25, 25mm
論文タイトル	14p(中央寄せ)
論文サブタイトル	12p(中央寄せ)
執筆者, 本文日本語	10p 明朝
数字, 欧文	10p 標準:Century
キーワード	10p ゴシック
章題	10.5p ゴシック
節題	10p ゴシック
図表番号	9p ゴシック
図表タイトル 説明	9p 明朝
参考文献	9p 明朝

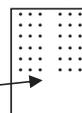
B5版となる. 切り貼りがあっても良いが, 縮小を考慮し文字の大きさ等に注意すること.

(2) 詳細は, 「体育学研究」投稿の手引きに準ずる.

参考文献

参考文献は論文の最後にまとめて, 著者名のABC順に一括し, 定期刊行物の場合には, 著者名(発行年): 論文名, 誌名, 巻号: 引用ページ(p.またはpp.)の順とし, 単行本の場合は, 著者名(発行年): 書名, 発行所, 発行地: 引用ページ(p.またはpp.)の順とする. 参考文献の見出しは章題と同様とする.

最終ページ余白は,
左右を合わせる.



* 2002年12月14日 日本体育学会長野支部にて口頭発表

¹⁾ 信州大学教育学部

²⁾ 長野工業高等専門学校

全執筆者の所属を記す

脚注は1段組 明朝 9p

編 集 後 記

長野体育学研究第20号をお届けします。

本号では、学校体育における武道の必修化にともない1月26日に開催された長野学会48回大会でのシンポジウム「みんなが楽しめる武道の授業を考える」の様子をお伝えすることになりました。とても有意義なシンポジウムの内容が、登壇された先生方のご努力で記されています。

一方で、「体罰」の問題が最近のスポーツ指導の大きな話題となっています。

我々、スポーツに携わる立場の人間にとって、スポーツの真髄を問われているように思います。

シンポジウムが長野体育学会の関係みなさまにとっても有意義になることを祈っています。

(結城匡啓)

編 集 委 員

結 城 匡 啓 橋 本 政 晴

Editorial Committee

M. YUKI

M. HASHIMOTO

平成25年6月27日 印刷

平成25年7月12日 発行

非 売 品

長野体育学研究第20号

(Nagano Journal of Physical Education and Sports)

編集発行者

渡 邊 伸

発 行 所

日本体育学会甲信支部長野体育学会

〒380-8544 長野市西長野6-10

信州大学教育学部スポーツ科学教育講座内

日本体育学会甲信支部長野体育学会

印 刷 者

信教印刷株式会社

**NAGANO JOURNAL
OF
PHYSICAL EDUCATION AND SPORTS
NO. 20**

CONTENTS

Original investigations

- 1 Tatsuya HAYAMI, Mitsukimi SUGIMOTO and Tomohiro KIZUKA
Jumping distance changes under abstract instruction of exercise
intensity in standing long jump

Materials

- 9 Special report on Symposium 2013

News and Information

Edited by

Kohshin Branch of Japanese Society of Physical Education

July, 2013